

2018 シャボン玉フォーラム in 北海道



大地が育む いのちと水 ~未来をつくるのは私たち~

全体会

5/12(土) 13:00 ~ 17:00 (開場 12:00) 会場 / かでる 2-7

(12:00 ~ パネル展示、書籍や石けん等を販売しています)



2018年5月12日・13日

主催：せっけん運動ネットワーク

受入団体：生活クラブ生活協同組合北海道

全体会は「アイヌ古式舞踊」で幕を開けました。札幌大学ウレシパクラブのみなさんによる歌や弓の舞や熊の霊送りの踊りなどが披露されました。「ウレシパ」とはアイヌ語で「育て合い」を意味します。歌や踊りで喜びや悲しみを体で表現することはアイヌには欠かせない物でした。

2018年は北海道と命名されて150年の年。それまでは蝦夷地と呼ばれ、北海道の先住民であるアイヌ文化が続いていました。アイヌ民族の狩猟や山菜採りが中心で自然の恵みに感謝し必要以上に採取しない、また神なる魚、鮭を運んできてくれる川を汚すことは洗濯であっても許されませんでした。大量の食べ物の廃棄や、有害な合成洗剤による河川環境破壊が進んでいる今、家庭の中から環境汚染をしない生活を伝え広げていく事、恵まれた大地で暮らす私たちだからこそ伝えたい、子どもたちに残すべき大切なものは何か？という開催趣旨で2日間のシャボン玉フォーラム in 北海道が開催されました。

基調講演① 大地が育む いのちと水～霧多布湿原から～

講師：三膳時子氏 (NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト理事長)

3160ヘクタールの広さを持つ北海道浜中町の霧多布湿原は国内3番目の広さ。花の湿原と呼ばれるほどの、夏には美しい花が咲き誇ることで知られている湿原。この湿原を未来の子どもたちに残そうとナショナルトラスト運動が始まりました。活動は32年前の一件の喫茶店から7名の若者で始まり、三膳さんは1985年NPO法人霧多布湿原ファンクラブの会員となり、2000年から理事長に就任。





NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラストのコンセプトは「湿原開発に反対」ではなく「湿原を残すことに賛成」。霧多布湿原の魅力を全国に発信することで賛同者を募り湿原の民有地を買い取る活動を実施しています。スライドでは2週間ごとに入れ替わる、白いワタスゲの群生から、黄色のニッコウキスゲや白い水芭蕉、紫の菖蒲や黒百合など美しい映像が映し出されました。森の調査、高校生や小学生による川の調査、海辺ランチツアーや牧場ランチツアー、無人島ツアー、夏の冒険キャンプなどの活動も紹介されモモンガ、オオワシ、オジロワシ、丹頂鶴などが身近に目にできる映像もあり北海道の大自然を感じ取れ、子どもたちにこの美しい自然を残したい！というみなさんの強い思いが伝わってきました。

でも実にゆったりとした活動のようで、それが長く続く秘訣なのかもと思いました。

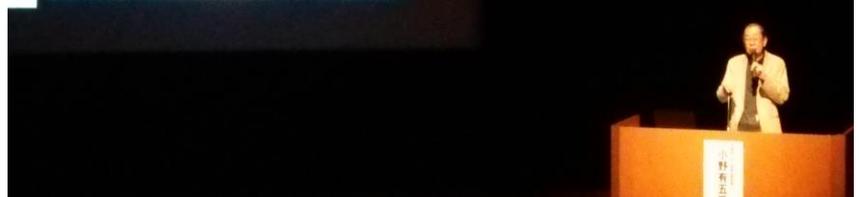
基調講演② 北海道の自然を残すために

講師：小野有五氏（北海道大学大学院名誉教授）行動する市民科学者の会

活動の始まりは1989年のシマフクロウとの出会い。シマフクロウは羽を広げると畳一畳くらいにもなる大きな鳥。その生息地がゴルフ場になろうとしていた。シマフクロウの目を見た時「ちからがないならしかたがないけど、ちからがあるならなぜぼくたちをたすけるためにうごいてくれないの？」と言われたような気がした。シマフクロウを絶滅から救う運動が始まり、ヒナを育てるためのプラスチックの巣箱の設置や、エサ場である川を守る活動をはじめた。川を守るには森や湿原、山を守ること。

大学と市民をむすぶ「北海道の森と川を語る会」を1990年結成。

1991年から2000年の10年間千歳川放水路問題に取り組み、市民が大規模公共事業を止める。天然の湧水が流れる美々川の下を掘る人口の放水路が計画され市民が反対運動を起こす。計画が実施されると美々川が枯れてしまう。市民が提案した土地に遊水地がつくられ放水路計画は中止に。今やその遊水地は丹頂鶴の新たな生息地になっている。



そして3.11が起きた。福島第一原発は太平洋岸にあったために放射線物質の8割は太平洋に流れた。もし日本海側の原発だったら…。泊原発は北海道の一番風上（西）にあり泊原発が事故を起こせば北海道の自然全てが汚染される。泊原発無しでも北海道の電気は有り余っている、原発の発電コストは天井知らず！今後の事故処理、廃炉費用の増大で無限に高くなる。一日も早く原発を持っている大手会社から生協などの新電力に契約変更を！

泊原発が再稼働出来ない 5 つの大問題点①敷地内の活断層②海底活断層③敷地の液状化④火山（洞爺湖カルデラは泊からわずか 55 km）⑤津波・非難の不可能性

◆正直、地層の話は難しく、1 万年、3 万年という期間が「わずか」と表現されることもピンときませんでした。が、廃炉になっても高い熱と放射線を持っている核のゴミを 10 万年も人間は管理できるのか？

という事を考えると 1 万年もたたないうちに大きな地殻変動が起こりうることを否定できない日本に本当に危険すぎる原発は必要ないと思いました。

お話の中でアイヌの歴史に触れられましたが興味深かったです。

日本の最初の植民地であり表記は北加伊道（北のアイヌの国の意）アイヌ＝人間の意

明治政府による植民地化「北加伊道」を「北海道」に改ざん、土地権、漁業権などすべての権利を奪われ若いアイヌはニシン場への強制労働など。いまだに差別はあるそう。オープニングのアイヌの古式舞踊のような文化を語り継いでいく事はとても大事だと思いました。

地層についてもアイヌについても先人や過去から学ぶことは多い、なのに目先の利益のために過去の声を聞かない現代の（昔も？）人間は何か事が起こってからしか反省しない。短い時間でしたが北海道の大自然を感じ、この環境を未来に残すために自分にできることは何か、考えていきたいと思えるフォーラムでした。

ここで講師の小野先生の言葉を紹介します。（小野先生はオノヨーコさんのいとこだそうです）

Active に生きることの意味 7 つのキーワード

- 1 Walk 歩く（現場に行ってみる）
- 2 Connect 結ぶ（人と人、川と森とを）
- 3 Teach 教える
- 4 Act 演じる（人に伝えるために）
- 5 Change 変える
- 6 Trial 訴える
- 7 Imagine イマジン（自分が一年後こうなりたい、こういう社会になんていたい）

Act は不得手ですが、自分にできることを小さなことからコツコツとやりたいと思います。

環境部会担当理事 保木本久美子